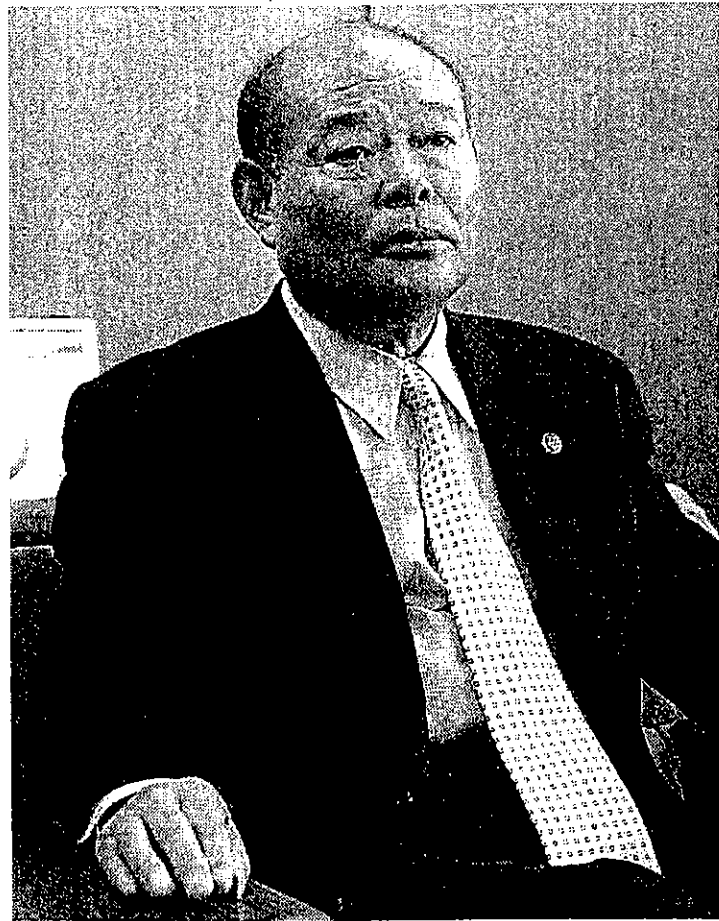


民意くむのは誰か



まつしま ていじ 松島 貞治 泰阜村長

50年、同村生まれ。飯田高校卒業後、同村役場の職員に。94年8月、初当選。在宅福祉の推進で全国的に知られる。



こしはら よしまさ 腰原 愛正 大町市長

47年生まれ。慶応大商学部卒。大町青年会議所理事長、大町市議などを経て90年、市長に初当選。県市長会長も務める。

地殻変動受け入れよう

市民活動家の感性貴重

——多くの市町村長が知事に対して怒っています。00年の選挙では、私を含めたすべての市町村長が副知事だった池田典隆氏を応援した。泰阜村では75%の得票率だった。02年の出直し選では、弁護士長の長谷川敬子氏を応援した。村出身で私の中学の後輩。ここでは65%を得票した。村部はでも負けたんだ。村部は

に、我々が良かれと思ってきた県政に、県民はノーと激変動だったと思う。市町村長も住民に選ばれています。何が違うんですか

2市町村長たち

対論

田中県政とは

県と市町村の関係が悪くなった。田中康夫知事に対するこんな批判をよく耳にします。知事が一時、住民票を移した泰阜村の村長で、良き理解者として知られる松島貞治さん。住民の代表としての市町村長の役割を知事が軽視し、事前の調整なしに政策を次々と打ち出したことが混乱を招いたと不満を募らせる大町市長、腰原愛正さん。2人に聞きました。(文中の注1・2の説明は下欄参照)

◆この企画は随時掲載します。

調整なく一方的に決定 民主主義否定の手法だ

——県と市町村の関係が悪く、悪いと言われます。原因は県が、市町村と調整をせず一方的に政策を決め、混乱を起しているからだ。例えは小学校の30人規模学級(注5)。人件費は県が負担するとして3年生まで拡大したが、突然、「4年生からは市町村も協力を」と言ってきた。どう費用を賄うか。事前に市町村

どの話し合いは全くなかった。実に場当たり的だ。政策としては良いと思う。だが、市町村が協力を金を出さず、他の予算を削

れば、その予算でサービスを受けていた人に不利益が。財政も厳しい中、道路建設など公共事業について「もう手を止めて歓迎」と

力を入れてほしいとの声は強そうです。財政も厳しい中、道路建設など公共事業について「もう手を止めて歓迎」と

行政は、法的、科学的に検討を尽くして、「ここにかない」という適地を決め、周辺住民を説得する。難しい仕事を積み重ねた結果が賛成8割。最後に住民が同意してくれるのは、行政が責任をもちからだ。

——それ、知事はあかかも「地域のボスや顔役が勝手に物事を決めて」一かのように描き、自分だけが民主主義の体現者のように振る舞う。だが、最も民主主義を否定しているのは、知事自身だ。

いふ雰囲気は薄くなった。田中知事はそれを巧みに突いて、例えは、松本糸魚川連絡道路(注6)を最初は事実上、建設不要と言った。しかし、私たちは30年という長い誘致活動をしてきた。高速道路の無料インターから25分離れている大町にとって企業誘致に不可欠だし、災害による交通途絶に苦しめられてきた住民を守る役割もある。

100%ではないが、8割は賛成していると思う。ところが、知事は残りの2割の反対の声を傾け、

6年間、県政が停滞しても人々が不安を感じないとすれば、基礎的な住民サービスを市町村がきちっと提供しているから。知事が遊んでいても、だから何でも何とかなるの、我々ががんばっているからだ。

——市町村長の声を聞かないのは、住民の声を聞かないのと同じでは。田中氏は、さう考えない知事なんだ。それは首長の意見であって、住民を代表してはいない。自分は、首長に選ばれたのではない、山の中のおぼろげの一票で当選したと思う。

キーワードは民意。民の心。それまでの統治システムでは、市町村長が自治体の民意の代表で、何かあれば住民や議会を通じて頼む。県は市町村長の意見を聞く。さうじゃなくなった

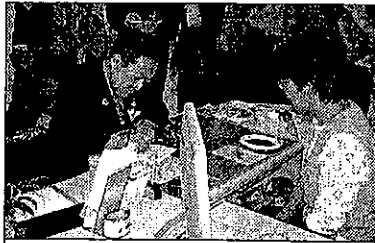
も、別の場所にアパートを借りて単身赴任している人もいる。村長としては、毎日帰ってこなくて、転入届も出し、連絡もついでに村民と判断した。「税を払いたくなる自治体に税を納めたい」との思いを行動に移すのはなかなかできないこと。何もしない方が波風も立たず楽に決まってる。知事に委ねてしまおうかの判断は県民がする。

2氏が取り上げた6年間の話題

(注1)00年の選挙で、田中氏は17市のうち、飯山と大町を除く15市で、池田氏の得票を上回った。02年の出直し選では、17市すべてと82町村で長谷川氏を上回った。

(注2)99年度と06年度の予算で目的別に歳出の割合を比較すると、福祉(民生費)は5.7%から9.8%に、教育費は19.0%から24.1%に増大。一方、土木費は、22.6%から13.6%に減った。

(注3)田中知事は03年9月、長野市から泰阜村に住民票を移し、新住所を松島村長宅にした。両市村選管の選挙人名簿に二重登録され、訴訟に発展。長野地裁は、村に

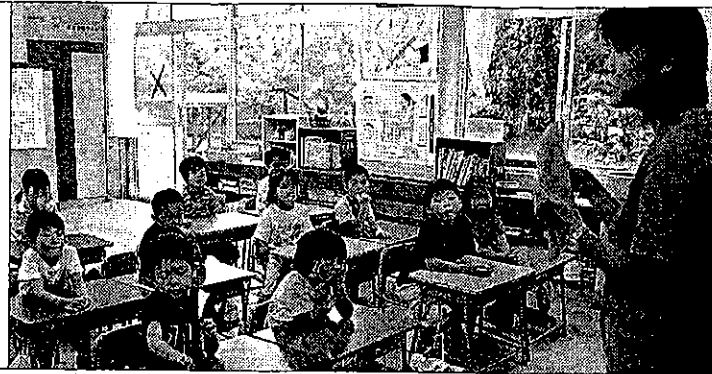


泰阜村役場で転入手続きする田中知事＝03年9月26日

生活の本拠はないとして、村選管に登録取り消しを命じ、最高裁決定で確定した。知事は、04年末に軽井沢に住民票を移した。

(注4)阪神大震災後、現地でボランティア活動に従事。神戸

30人規模学級。教師の目が行き届きやすい長野市で



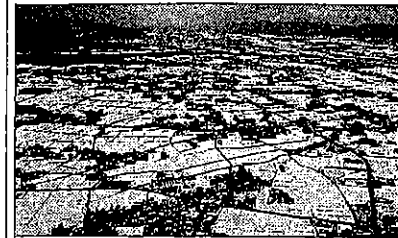
空港建設への反対署名運動でも知られる。

(注5)1学級の児童数を35人以下にする施策で02年度に小学1年で開始。4年生に拡大する際、市町村が費用の一部を任意協力金として負担するとの県の提案に、市町

村が反発。最終的に、小学4年生までは全額県負担、5・6年生は、県と市町村の「協働事業」として実施することで決着。05年度の県負担は約22億円、市町村が2億円。

(注6)長野、新潟両県を結ぶ全長

約100*の高規格道路の計画。自然保護などを理由に建設に反対する意見も根強かった。02年、田中知事が「既存道路の充実で対応」との方針を示した。その後、国による高規格道路の要件緩和もあり、整備に向けた具体的な見直し作業が



松本糸魚川連絡道路が計画されている安曇野地方＝旧穂高町付近

進んでいる。

(注7)県廃棄物処理事業団は旧豊科町(現安曇野市)に処分場を建設する方針だったが、一部地区では住民投票で反対する結果が出た。00年、田中知事が従来の計画を白紙に戻して再検討する意向を表明。学識経験者を交えた検討委員会による議論を経て、現在は県が主体的に候補地選定を進めている。

(注8)自律的な地域づくりを支援するため05年度に県が設けた。市長会長と町村会長は、本庁に設けた「全県枠」選定委員会のオブザーバーにとどまる。また、各地方事務所に設けた「地域枠」の選定委員会では、06年度から地元の市町村長を外した。

体験・意見・提案お寄せください

県の課題や政策、知事選などをテーマにした対論を随時掲載します。あなたの体験や意見、感想をお寄せください。また、読みたいテーマや、聞いてみたい論者の提案も募集します(連絡先を明記)。

<電子メール>
chijisen-nagano@asahi.com

<ファクス>
026・223・7331

<郵便>
〒380-0921

長野市栗田989-1
長野朝日放送5階
朝日新聞長野総局